

防災先進国として進む道

2019防災産業展 i n 東京

日本防災産業会議 講演会

「2019防災産業展 i n 東京」（日刊工業新聞社主催、日本防災産業会議共催）が6月5〜7日、東京ビッグサイト青海展示棟で開催された。5日の基調講演では国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長の林春男氏が基調講演を行い、6日の「防災安全協会×日本防災産業会議ステージ」（モノづくり日本会議協力）では、内閣官房総括参事官の勝野美江氏が日本の食文化発信について、甲南女子大学名誉教授・防災安全協会顧問・NPOボランティアネットワークNANDA理事の奥田和子氏が災害食について、それぞれ講演した。



日本防災産業会議



「生きる、を支える科学技術」を目指す 防災科研の試み

防災科学技術研究所 理事長
林 春男氏



昨年、年初から1年以上かけ、防災科研は一体何を
どこかを所員一同で
議論してきた。いわゆるブ
ランディングの一環で、そ
の結果が「生きる、を支え
る科学技術」という形にな
った。

地震津波噴火暴風豪
雨豪雪洪水地すべりな
ど、自然の驚異は尽きること
がないが、災害はなくす
ことができる。と考えてい
る。国連の持続可能な開発
目標SDGsが今盛んに
言われているように、持続
可能な社会へ導くために私
たちができることは、防災
に関する科学技術を開発さ
せること。一秒でも早い
予測、一分でも早い避難、そ
して一日でも早い復興を目
指し、人々の命と暮らしを
支えていくというのだ。

自分たちのアイデンティ
ティーの整理をする。同時
に、研究として何をしてい
くべきなのかを、国難災害
を乗り越えるためのレジリエ
ンス・ペーショント
5として進めてきた。仮に
首都直下地震が起こらな
くても、南海トラフ地震は
ば間違いない。起り、最低
でも国家予算の1年分に当
たる100兆円ぐらいの被害
規模を21世紀前半にわた
り経験しなければならな
い。関東大震災では日本の
国家予算の3年分の被害が
一遍に出て、その後、世界
恐慌があり、戦争へつな
がっていった。東日本大震
災は被害だけで16兆円。そ
れが1桁繰り上がることば
、可能な社会へ導くために
私たちができることは、防
災に関する科学技術を開発
させること。一秒でも早い
予測、一分でも早い避難、
そして一日でも早い復興を
目指し、人々の命と暮らし
を支えていくというのだ。

ば、レジリエンスそのもの
も見直さなければいけな
い。それがレジリエンス
・ペーションというこ
とで、2025年までに実現
しようと考えている。

その中で私たちが考えた
のは、研究を推進してい
くエコシステムを作らな
ければならないということ。
エコシステムとは日本語で
端的に言う、どうやって
お金を導入して回すか。そ
で重要なのが長期構想だ。
災害のレジリエンスを高
められるような、新しい
プロジェクトをただたか
ら作るのか。それらがば
らばらではなくて、一つの
長期構想に基づいた形
でなされる必要がある。そ
れが実装されて社会が
変わる。それが
長期構想の在り方
も変わっていく。これが
くるくる回
つていけば、エコシ
ステムというこ
とになる。

長期構想をやっていく
に、やはり何が
高まるのか
レジリエンスが高まる
のかをしっかりと評価
できないと、いい方
向に向かっている
かどうか分からない。
そのエコシステムの
くるくる回
る中に、レジ
リエンス
・コア能力とい
うものをし
つくり出す
ことが重要
になる。

国難災害を乗り越える24の能力伸ばせ

されている。通称「PDD
ー8」で、その中で米
国は整備すべき能力が32ある
という定義をしている。
一方、日本では防災基本
計画を法律で作ることが決
まっているが、中には
実は26の業務が規定され、
最低限その業務がつか
なく実施されるのが、防災
の根幹という定義がされて
いる。これら二つを突き合
せながら整理してみると、
24の側面能力の向上が必
須だと結論付けられる。そ
れをさらにグループ
分けしてみると、①戦略や計画
を立てられる能力②計画に沿
ってものを実行できる能力
③レジリエンスをきつと
評価できる能力④推進力を
維持できるか、モチベー
ションを保てるか⑤人材育
成⑥リスクコミュニケーション
⑦連携の取れた業務遂行
となる。

この七つは実は災害
だけではなく、人生を
つくるための基本能力
でもある。そういう高い
能力を持つ国民に私
たちがなれる。次に
必要なのは、全部の
災害の局面で必要
になる予測能力や
情報処理能力。これ
らは予防や
応急対応、復旧、
復興にも役立つ。さ
らに予防の
ための能力、
応急対応の
ための能力、
復旧・復興を
進めるための
能力など、
全部
整理すると24
になる。これ
ら24を一つ
ずつきつと定
量化できて、1
年ごとの進
捗が分かる
ような形で
見える化を、
これからや
っていく必要
があると思
う。

2020年における日本の食文化 発信について

いよいよあと1年
少しで東京五輪・パ
ラリンピック
が開催される。五輪
で33競技、
パラリンピックで
27競技あり、
参加選手は1万
5000人ぐ
らい。さらに大
会関係者や観客が
海外からたくさん
来る。当然リス
クも伴ってくる。
一方日本は地震
や大雨などの自然
災害が非常に多い。
大会期間中にその
ようなものがない
ことを祈っている
が、あつた場合の
対応も考えなければ
いけない。今回の
イベントのテーマ
と関連する。

内閣官房東京オリンピック・
パラリンピック推進本部事務局
総括参事官 勝野 美江氏



かも（イスラム教徒の）ハ
ラルやベジタリアン対応
なども必要になってくる。
食料調達でも持続可能性に
配慮し、安全性を担保する
ため調達コードが設けられ
ている。ロンドン大会の
ときの調達基準では、農
産物や乳製品、牛肉、
ヒジキの肉、水産物とい
うようにカテゴリーごと
にルールが設けられ、
これを満たさない
と調達できない。同大会
では英国版のGAP認証
が導入された。GAP（
Global Agriculture
and Food Safety
Practice）とは、農
産物の生産工程を
きちんと管理してい
く制度だ。



この防災産業展では、
ピヨンド2020プロ
グラムとしてピヨ
ンドマークを付
けた製品が
展示されて
いる。これは
日本の文化を
発信する取
組に対する認
証で、条件は
二つあり、多
言語対応がバ
リアフリー対
応すること。
パラリンピ
ックでもある
ことから、飲
み込みが難
しい方に配慮
し、介護食
品などの多
言語対応も
重要になる。
来年の大
会を広く促
えようと、ス
ポンサー企
業ではな
る。いろいろな
事業活動の中
で、各地で
このプログラム
を活用した取
組をお願いし
たい。

東京五輪・パ
ラリンピック
では組織委員
会が調達する
物品、サービス、
全てのものに
対し持続可能
性に配慮した
調達コードが
適用される。
東京都中小企
業振興公社の
ビジネスチャン
ス・ナビとい
うウェブサイ
トにこの調
達関係の情
報が全て

掲載され、興
味がある事
業AP、グ
ローバルGAP
、そこに無
料で登録で
きる。この
持続可能
性は単に環
境面だけで
はなく、労
働環境、人
権、経済
といった観
点が適用
されること
になっている。
各県の対
応には温度
差があるが
、かなり早
く準備を進
めているこ
ろもある。

さらに、農
産物では、食
品安全、環
境保全、労
働安全、う
ち福島県は
お茶を除
きJGAPの
取得数が日
本一で、昨
年だけ見
ると、

訪日外国人が驚く災害食とは 为什么呢

甲南女子大学名誉教授 奥田 和子氏

（防災安全協会顧問、NPOボランティア
ネットワークNANDA理事）



今回のテーマは、訪日
外国人が驚く災害食。非
常に立派なことで驚く
のであればいいのだが、
実はその逆で驚くよう
な話になった。まず
一つ目は、関西空港
での話。昨年9月に台
風が来て、関西空港は
高波に洗われて飛行機
が飛べなくなりました。
訪日外国人の約500
0人が空港に閉じ込め
られ、食事は合計3食
ほど出された。1回
目はビスケットと水。
2回目は空港内にある
コンビニに残った弁
当で国土交通省が出
してき

た弁当。3回目はパン
と水だった。これを食
べた外国人は、どう
思ったか。3回の食
事のうち2回も同じ
ものを出し、弁当も
果たはた外国人の口
に合ったのか。2番
目の例は、関西空
港という駅。関西空
港とつながった橋に
大型の船が衝突し
て橋が機能しなくな
り、空港の一手前
の所で、外国人約2
00人が取り残され
た。食事は合計3食
ほど出された。そ
で配られたものは、
アルファ化米とい
う、米をいったん
乾燥させて袋に入
れたもの。水を入
れれば食べられ
ない。外国人は、
雨のときの朝
倉市で豚汁とみ
そ汁が提供され
たが、外国人は
どちらでもイ
スラム教徒は食
べられない。1
人でも違う人
がいたら、そ
ういう人

のために、アル
コールの入
っていないみ
そ、ハラルの
マークが付
いているもの
を使い、豚肉
はやめておく
入れたい。

大阪市の在留
外国人は13
万人で、大
阪市はハラ
ール認証の
アルファ化
米や、アレ
ルギー対応
の食品も備
蓄する。大
阪北部地震
のとき、大
阪市は法的
な備蓄でアル
ファ化米を
多く備蓄し
ていた。そ
れならば、
ハラールの
マークが付
いたものを
備蓄すれば
いいのに、
何のマーク
も付いてい
ないものを
備蓄してい
る。結局、こ
ういふ対応
が全

食事内容・多言語対応などに気配りを



来場者で賑わう防災産業展の会場